

しおさい なぎさ 潮彩の渚だより

国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所発行
神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4
Tel.045-461-3892
発行/2022年4月8日
【復活版 第8号】

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

本号では、令和3年度下半期の潮彩の渚における活動や水質調査結果等についてお伝えします。

**** 環境学習実施状況（幸ヶ谷小学校、篠原小学校） ****

◎幸ヶ谷小学校：2021年10月5日（火）
10月6日（水）

◎篠原小学校：2021年11月2日（火）

- ・新型コロナウイルス対策として使用する用具等もこまめに消毒しつつ活動しました。
- ・多目的プラザでは、横浜の海や生き物、干潟の役割、潮彩の渚などについて学習しました。
- ・潮彩の渚での生き物観察では、石を動かしてカニを見つけたり、潮だまりでエビやハゼの稚魚などを見つけていました。最初は生き物に触ることができなかった子も、徐々に慣れてカニを捕まえられるようになっていました。
- ・また、(公財)日本釣振興会の皆様にご協力いただき、潮彩の渚で釣りによる生物調査も試行し、ハゼやコトヒキなど様々な魚を確認することができました。日本釣振興会の皆様、ありがとうございました。



海のことや潮彩の渚についての説明



釣りを活用した生物調査



潮彩の渚での生き物観察



生き物の展示と観察

**** 事務所からのお知らせ ****

●潮彩の渚における環境学習については、当事務所までお問合せください。

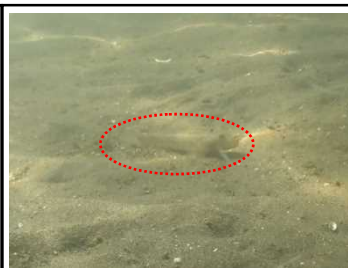
【問い合わせ先】 TEL：045-461-3892 E-mail：info-y83ab@mlit.go.jp

夏から秋に見られた生き物

- ・8月～11月では、魚類を中心に様々な生物（アサリ、ハゼ類、シマイサキ、クロダイ、エイ類等）が確認されました。
- ・クロダイが群れで潮彩の渚に入り、付着生物などを食べている様子が見られ、生物を育む場として機能しています。
- ・アサリは8月に5mm前後の稚貝が多く確認され成長が期待されましたが、11月には例年程度まで減少していました。今後は、稚貝が冬季を乗り越えて大きくなっていくことができるかが注目されます。



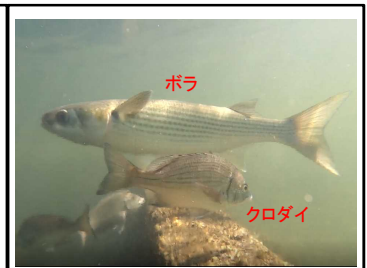
アサリ(8月)



マハゼ



シマイサキの群れ



クロダイとボラ



アカエイの幼魚とツバクロエイ



クロサギの群れ

今月のいきもの：アカエイ

【生態】砂泥質の海域に生息し、主に魚や貝などを食べます。産卵期の夏頃には卵を産むために浅い場所まで来ることが多く、海辺で見られる場合もあります。アカエイがアサリなどの貝類を食べた跡は丸い窪みができるため、痕跡から生息を確認することができます。

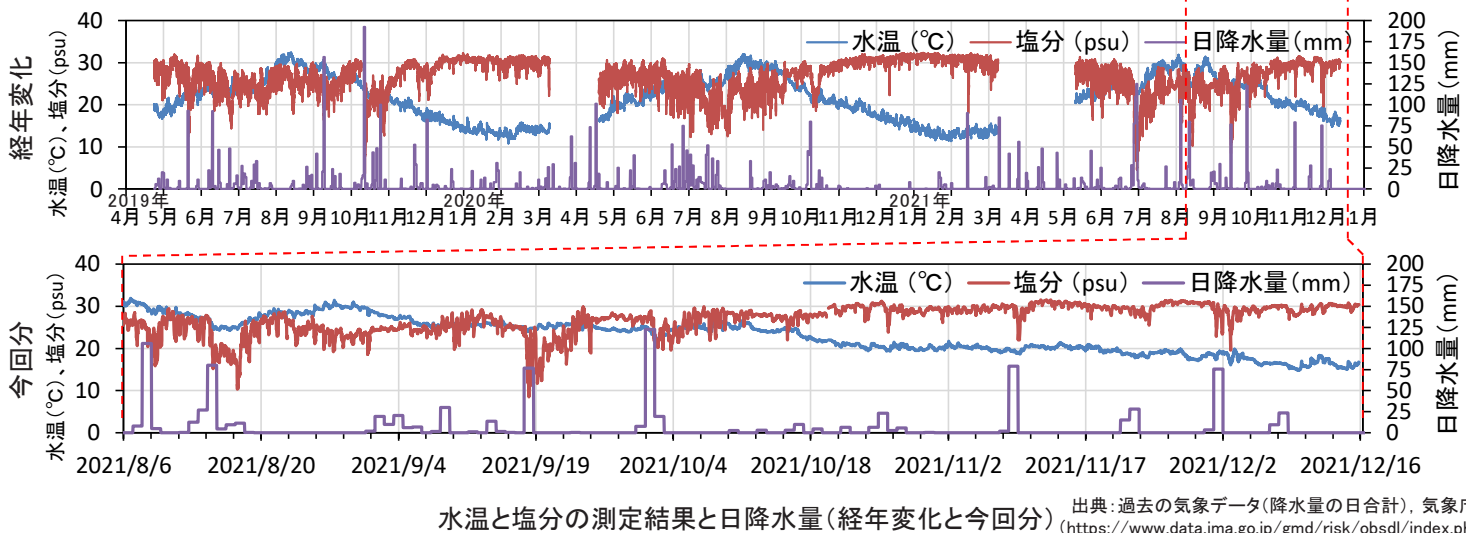
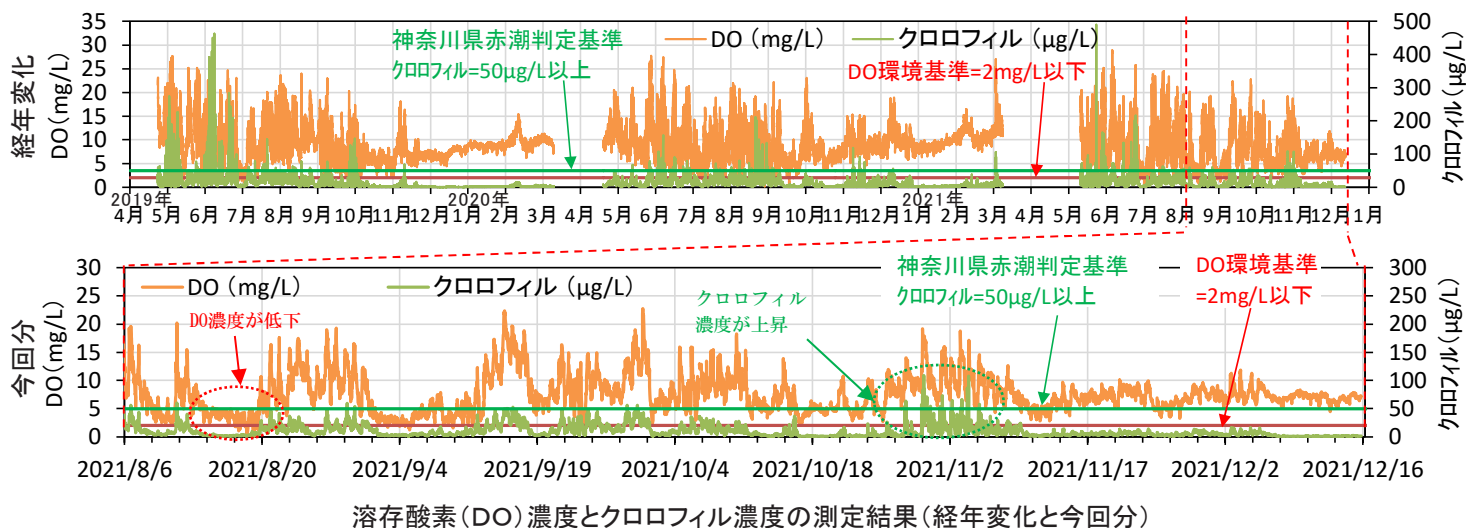
【生息域】日本の沿岸域に広く見られます。

【特徴】体は刈刈した体液で覆われ、大きくなると体盤幅1メートルを超えます。尾には毒のある大きな棘があるため、見かけた場合は死んでいたとしても注意が必要です。東京湾では数が増えていると言われています。

8月から11月頃に見られた生き物(抜粋)

「潮彩の渚」水質調査結果(8/6~12/16)

- ・潮彩の渚に水質計を設置して、水質を継続的に測定しています。本号では8月6日から12月16日の結果を示します。
- ・植物プランクトン量を確認できるクロロフィル濃度は、赤潮判定基準の一つになっています。クロロフィル濃度が赤潮の基準値の50 $\mu\text{g/L}$ を超えた日は、昨年と同じ期間では、133日中24日で、最大値は211 $\mu\text{g/L}$ でしたが、今年は133日中16日で、最大値は109 $\mu\text{g/L}$ と昨年と同程度でした。
- ・海水中の溶存酸素(DO)濃度が低下すると、魚や貝など様々な生物に悪影響を及ぼします。溶存酸素(DO)濃度が環境基準の2 mg/L を下回った日(貧酸素状態)は、昨年と同じ期間では、133日中8日で、最小値は0.2 mg/L でしたが、今年は133日中9日で、最小値は0.1 mg/L と昨年と同程度でした。なお、9月までは断続的に貧酸素状態となっていました。10月以降は貧酸素状態は見られず、11月以降は横ばい傾向となっていました。



コラム:アマモの種苗を育成しました

- ・前号のコラムでは、干潟や藻場が海の生物たちのゆりかごとして機能していることを紹介しました。
- ・代表的な藻場の一つに、アマモ場があります。アマモ場は、魚やエビなど多くの魚介類の生育の場としてだけでなく、光合成により二酸化炭素を吸収することから、「ブルーカーボン」として地球温暖化対策の一つとして近年注目されています。
- ・様々な機能を持つアマモ場ですが、当事務所ではアマモの種苗育成に取り組みました。
- ・11月に種を植えてから約2週間で、最初の発芽を確認しました。その後も発芽、成長が進み、3月上旬に潮彩の渚及び山内町地先の実験水域に移植しました。
- ・アマモの種子の入手にあたっては、東京湾UMIプロジェクトの活動において、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議及びNPO法人海辺づくり研究会の皆様にご協力頂きました。ありがとうございました。



写真1 発芽したアマモの芽



写真2 移植直前のアマモ
(水槽からあげた状態)